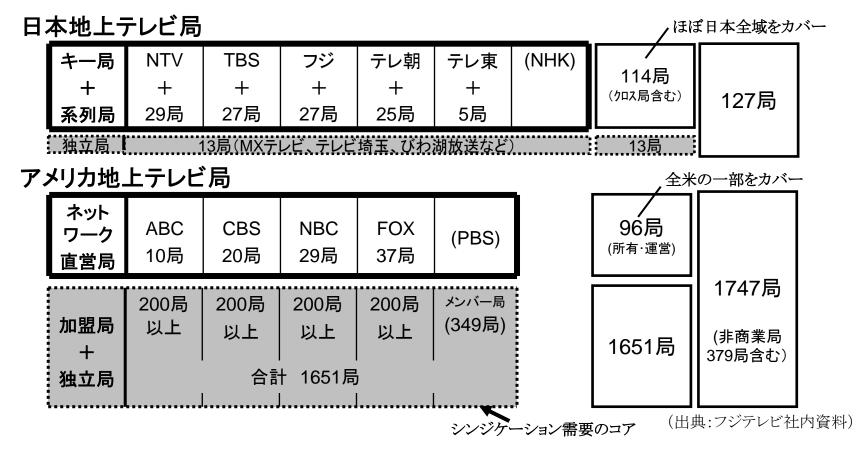
# 日本の地上放送体制における フジテレビの番組販売状況

#### 地上テレビ体制(日米比較含む)-1



A:日本は、民放系列114局+NHKで<u>日本全国のほぼ全域の放送エリアをカバー</u>。米は、ネットワーク直営局96局+PBSで全米の一部だけの放送エリアをカバー。

B:日本のキー局と系列局間では強いネットワーク協定が結ばれ、番組の効率的運用、セールスの一元化などが行われ、 徒なコストをかけずに経済合理性を全うし、かつ全国の視聴者にとって安定的に放送を視聴できる環境を担保している。

C:米の4大ネットワークと加盟局の関係性は日本のキー局と系列局の関係に比べ希薄。加盟先の変更は日常的で、編成 内容もネットワークとは異なる独自編成色強い。PBSのメンバー局は更に、その関係性が薄い。また独立局も多く存在する。

D: 従って、アメリカには日本(韓国も同様)とは異なる、番組調達市場を求める、大きな**<需要>**が存在する。

#### 地上テレビ体制(日米比較含む)-2

E:一方、米では、テレビ産業成立以前から、<u>海外の市場を持つく映画産業</u>があり、自己資金力、制作力、収益力を有する、テレビ番組制作者としての**く供給源**が存在した。そこから枝分かれした多くの有力な制作会社が生まれた。 cf) 日本では、テレビ開局当時に邦画5社協定により、各映画会社所属の俳優はテレビに出演させない、各映画会社製作の劇映画をテレビ局に売らないというテレビ非協力の取決めがあった。1960年代に自然消滅。日本のテレビ局は自力で制作体制を構築していった。

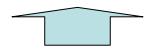
F:従って、米放送業界は、**<需要と供給>**がマッチしてコンテンツ取引市場が形成された。

**G**:ちなみに米では、「番組制作資金が不足し、広告枠は余っている」経営力の弱い放送局に対して、番組コンテンツとCM枠を物々交換する**<バーターシンジケーション取引制度>**が生まれた。これを多用する放送局は「近所のスーパーマーケットから買ってきた冷凍食品しか出さないレストランのようだ」と評されている。日本でこのような状況に陥らなくて済んだのは、放送普及基本計画という放送制度がうまく機能し、視聴者はその恩恵に浴したと言える。



日本の放送環境は、**日本全国の視聴者に対し※A、安定的に※B、品質が維持された※G、** 番組が放送される体制が整っている。日本において放送による情報格差はほとんどない。

また日本全国を網羅する報道ネットワーク体制を敷き、<u>事業収益性の低いニュース番組も安定的に</u> 放送することも可能にした。経営の安定性の確保と、ネットワーク報道協定によるもの。



### 放送法第1条の1

「放送が国民に最大限に普及されて、その効用をもたらすことを保障する。」

この法の精神をもとに放送普及基本計画が制定され、NHK・民放の2元体制を軸にした、広域放送と 県域放送割当の目標が定められている。

### フジテレビの番組販売の種類

- 1. 放送枠には、ネット枠とローカル枠がある。(別表)
- 2. (国内番販収入における分担金収入)ネット枠は、業務協定に基づき設定される。全系列局が同一番組をマイクロネットで 結び、同時間、同一内容で放送する枠。この枠の広告セールスは、通常は一元的に番組発局(ほぼキー局)が一括セールス を行い、系列局に収入 配分を行う。系列局は発局に対して、分担金を負担する。
- 3. (国内番販収入におけるローカル枠番販)ローカル枠は、各局が独自に番組制作・調達を行い、セールスも独自で行う枠。 キー局のローカル枠の番組は自ら制作することが多いが、系列局は、ニュース、地域情報系を除きキー局などから番組購入 することが多い。フジテレビにおけるローカル枠へのローカル番組販売は、
  - ・マイクロ番販=フジテレビローカル枠での放送番組を同一時間に同一内容で販売。
  - ・廻し番販=フジテレビローカル枠での放送番組を時差で販売。

上記番組販売がフジの国内番組販売収入の柱となる。

系列局は、上記のようにキー局からローカル番組を購入する以外にも

- ・キー局の1次放送の終わったネット番組の再放送権を購入。
- •他系列局の番組の購入。
- ・海外番組等、流通している番組等からの購入。

など独自に選んで調達する場合もある。

- 5. (CS視聴料収入)自ら放送権を保有する、あるいは放送許諾を得た番組と新規制作・調達番組を併せて、 独自編成したCSチャンネルを運営し、視聴者からの有料視聴料収入を獲得する。
- 6. (海外番販収入)自ら海外放送権を保有する、あるいは海外放送許諾を得たライブラリー番組を、番組販売マーケットへの出品や直接取引きによって、海外放送局あるいはシンジケーター等の中間取引業者へ販売する。

## フジテレビ番組販売内訳

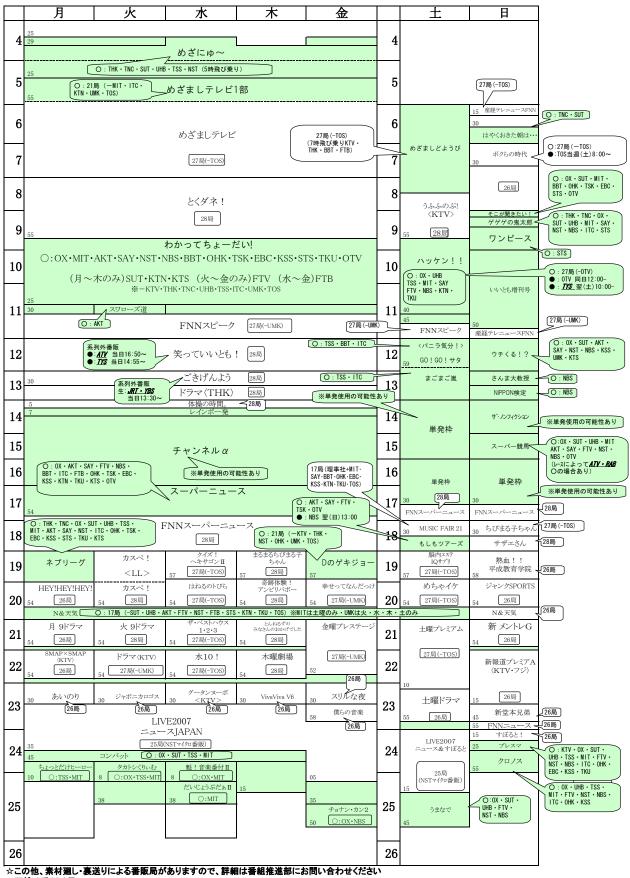
	2005年度	備考	フジの販売主体	系列局他の購入主体
《国内番組販売収入》				
<b>ネット枠番販</b>				
■番組制作費分担収入	排标	CXネット番組の制作費原価の系列局負担分。	ネットワーク局	系列局 営業
ローカル枠番販				
■マイクロ番販収入		CXローカル番組の系列局によるマイクロ回線での同時ローカル放送。		)
■廻L番販収入	排票	CXローカル番組の系列局によるCX放送後におけるローカル放送。	ネットワーク局	系列局東京支社
■全ライブラリーからの		CX番組ライブラリー番組の系列局及びその他への再放送権販売。		編成
再放送權反党仅入	J		)	J
《CS初感料以入》	排标	CX番組ライブラリー+自主制作番組(購入番組含む)で編成された、 チャンネルによる視聴料収入。	-	   スカイパーフェクTV及びC   ATV局の有料契約者
《海外番組販売収入》	排标	CXライブラリー番組販売(日本語版、外国語版)とフォーマット販売。	国際局	海外TV局orシンジケータ
		完成前販売のプリセールスは基本的になし。	(FCC 関連会社)	等の中間取り事業者
合計	※250億円			

<sup>※</sup> 財務発表数値ではない、中期経営計画での開示数値

#### (平成19年4月期番組マイクロネット状況表

★この表にはマイクロ及び裏録り・裏生しか反映していません。 特に表記のないものは同時マイクロ、●は裏録りです。

平成19年4月6日(金) ネットワーク部・番組推進部



☆下線は系列外局

- ・同時マイクロ受け(NTT⑪番)
  ・[26局・…-UMK・TOS(ただし、※印は表記の局をマイナスとする)
  ・「めざましどようび」「MUSIC FAIR21」はイレギュラーのため要注意

☆網掛けあり…ロ―カル番組

- マ納角17の9…ローガル番組 ・○… 同時マイクロ受け局(NTT⑪番) ・●… 裏袋り局(NTT⑪番を受け、表記の通り別時間で編成) ・生…裏生受け局(別回線NTT⑰番で受け、表記の時間で編成) ・※単発使用の可能性あり番組は、イントラまたは番組推進部に確認